

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
62

2019 睦月・如月

謹賀新年

金剛禅教育による人づくり
自分を信じ同志と共に歩む道
幸多き一年でありますように
皆様のご活躍を祈念いたします

金剛禅総本山少林寺代表

大澤 隆

特集

新春座談会2019

——「生き方」の指導者たれ！

新春のごあいさつ



そう ゆう き 宗 由貴 少林寺拳法二世師家

新年明けましておめでとうございます。

2011年の組織整備以降、多くの道院長の皆様が真摯に布教活動拠点の整備にご努力されていることに、改めて敬意と感謝を申し上げます。

昨年も、地域社会のニーズと金剛禅およびその行たる少林寺拳法の文化的価値を、他者とコラボレートした道院や、門信徒の増加により新たに拡張した道院などの心強いニュースが届き、大変うれしく思っております。

一方、社会に目を向けると、小学生が微増でも増えている地区もあれば、どんどん高齢化が進む地区や、その影響で深刻な空家問題に象徴される地域の無人化が進むなど、ここ10年で日本の社会は激変しています。

また、幼児虐待や、親子間のトラブルで起こる殺人事件など、人間力を養う場がなくなっていることも明らかな状態です。そんな社会の中で、親子拳士が多いのも道院の特徴です。親子で人間力を養う場、そんな役割が道院にあるのかもしれませんが。

さらに、高齢社会の今、中高年の心身の健康と仲間づくりが、若い人たちに自分の時間とともに夢と希望を与えます。子どもから大人まで、自分と向き合ってくれる人を求めている社会です。

人に寄り添い助け合える人間関係づくりと、行を通して人としての自信を身につけられる道院活動がますます充実することを、心から応援しております。

特集

新春座談会2019 「生き方」の指導者たれ！

2018年11月9日
担当／飯野貴嗣

いよいよ新しい年がスタートした。昨年に続いて、今年も大澤隆代表と各県道院長との座談会を企画した。今回ご参画いただいたのは、濱崎哲也三重県道院長、迎田展孝奈良県道院長、古屋讓山口県道院長、小林登徳島県道院長の4氏。金剛禅運動指導者としての熱い思いとは何か。そして活動の中心となる志と原理・原則とは何かを共に考えた。

忙しい中に自分の時間をどうつくるか

代表 本日はご多忙のところご帰山いただきありがとうございます。ど

うぞよろしくお願いいたします。
一同 よろしく願います。
代表 2018年秋の教区長会議は、全国九つの地域で開催しました。一回当たり8〜15人程度であったため、

文字どおり膝を突き合わせた有意義な意見交換ができました。皆様をはじめ、全国の出席者へ、この場を借りてお礼申し上げたいと思います。教区長会議で改めて感じたこと

は、道院長は少林寺拳法をこよなく愛しているということです。そして、拳士一人ひとりに心を配り、大切に育てているということです。一方で、社会の変化は目まぐるし



おおさわ たかし 大澤 隆 金剛禪総本山少林寺代表

く、人々のニーズやサービスはますます多様化の様相を呈しています。そのような中であって、開祖の志を貫き、金剛禪の教えを社会で実践していくには、私たちにも考え方や行動の柔軟性が求められます。本日は、私たち金剛禪運動指導者にとつて大切なことは何かを、皆さんとともに考えていきたいと思っています。

小林 社会状況を表す一つとして、サラリーマンの労働環境は依然として厳しい状況に置かれています。2008年のリーマンショック以降、世界経済は未だ回復していない。それは日本経済、そして若者の労働環境にも影響しています。社会人拳士の多くは、道院の修練時間に間に合うかどうかという時間帯まで仕事をしているのが実情です。

うしても自分の時間を取るのが厳しい状態にありますね。それでも、自分を高めるために思いを行動に移し実践している人は、休息の取り方も含め、自分なりに工夫して時間をつくっています。そういう人たちは、新たな教養を身につけたり、健康維持に努めたりしていて、それぞれの目標に向かって着実に歩みを進めています。

迎田 道院に通うサラリーマンは、本当にわずかな時間しか修練できない状況にあります。残業もあれば日曜出勤もある。会社が実績を上げないと、会社にも仕事が来なくなるので、働かなければならない状況になる。

古屋 私の道院の幹部も、夜10時くらいまで働いているようです。私自身も、道院や教区・武専の日以外は、仕事で遅くなります。でも、時間の使い方の工夫次第で、疲れも充実感に変わるものだと思います。

迎田 そうですね。私は27歳のときに道院を開設したのですが、ここまですべて続けたのは、寝食を忘れるくらい少林寺拳法が好きだったから。忙しいのは承知のこと。だから、自分の価値観をどこに持つかだと思っ

んです。そういう情熱を、次の世代にも持つてもらえるにはどうすればよいのか、というのが今の私の課題でもあります。

次の世代に「生き方」をどう伝えていくか

濱崎 迎田教区長がそこまで情熱的になれたのは、どんな経緯があったのでしょうか？

迎田 以前、『あ・うん』の「道」というコラム(*1)にも書かせていただいたんですが、私の母は、私を身籠ったとき体調を悪くし、母体の安全を考えて、医師から出産を諦めるように宣告されたのです。しかし、母は自分の命に換えてでも私を産むのだといって産んでくれた。だから今、私はここに存在できているんです。もし母が出産を諦めていたら、私はいないわけです。だから、子どものころは、親戚の人たちから「命を頂いたんやから、ちゃんと生きなアカンで」とよく言われましたね。



むかいだのぶたか 迎田展孝 奈良県教区教区長

それで、高校生になって少林寺拳法(榛原道院・砂川哲男道院長、当時)に出合つて、金剛禪の教えに触れたとき、「これだ!」と感じた。もちろん技術も楽しかった。ところが、18歳のとき父親を交通事故で亡くして、なかなか道院に足が向かない日が続いたんです。そんな折、砂川先生から電話がかかってきた。道院に出てこれるか。優しく声でもかけてくれるのかと思つて行ったら正反對で、「お前より不幸な人間は、世の中に何ぼでもおるんや。お前は達磨の子や。しっかりしろ!」と厳しく叱られて。でも、なぜか嬉しくて、本気で取り組もうという気持ちになりました。もし、砂川先生のひと言がなかったら、少林寺拳法を続けていなかったかもしれない。

小林 実は私にも、少し揺れた時代がありましたね。私の実家は自営業だったんですが、高校時代に事業が傾き、高校を中退しようかと思っ

*1 『あ・うん』vol.30「道」参照。



古屋 謙 山口県教区教区長

邦伯先生や庄野雅巳先生からは、生き方を学ばせていただきました。技術への憧れももちろんでしたが、人生のターニングポイントで、先生方の生きざまや背中に大きな影響を受け、現在の私があります。代表 「人生とは邂逅である」といわれますが、まさに私たちも多く、の諸先輩から「生き方」を学んできました。時に言葉であったり、時に先生方の背中であったり。今度は私たちが、次の世代にどう伝えていくかです。そのためには、私たち道院長が改めて自己の人生の目標を定め、人間としてよりよい「生き方」を追究していかなければなりません。

院長歴としては比較的浅いほうなのですが、おかしいと感じたことは大先輩に対してでも臆することなく、毅然とご自身の考えを発言する方なんです。藤井先生は現役の医師で、毎日多くの人を診ています。家事もこなし、週3回の道院に加えて武専や講習会にも欠かさず出席して、みずから学び続けています。このような信念を持った指導者の存在は大きいですね。

感性を磨けば身近なところにあるヒントがある

小林 そういう意味では、今、拳士の減少を危惧している道院長が少なからずいると思うんですが、私はこういうときこそ、道院運営の点検・修正を加えて、組織固めをするチャンスだと捉えています。私たち最前線の布教者が、自らの感性を磨き、時代に合った布教活動を工夫していく。前向きな姿勢で自己変革に取り組み続けていけば、必ず花開くときが来る。

私たちには「理念」があります。ダーマ(大いなるはたらき)を信じ、自己の可能性を信じて努力すれば、すばらしい人生が送れる。開祖はよ



小林 登 徳島県教区教区長

く「少林寺拳法をして幸せになれる。助け合える仲間づくりをしようじゃないか」と言われました。人づくりによる仲間づくり、そして理想境づくりにつなげていくことが、私たちの運動の目的ですから。

濱崎 感性を磨くには、意識を外に向けなければなりませんね。内向きの思考になると、視野が狭くなり、発想も乏しくなる。道院は外の世界とつながっているのですから、道院長は外の動きに関心を持ち、自分たちの教団を、あるいは道院をどのようにつくっていくのかをイメージする。こういう思考を繰り返していくと、身近なところにいるいろんなヒントがあることに気づいてきます。

迎田 詰まるところ、道院が活性化するかどうかは自分次第なんですね。道院を長く運営したときに陥りやすい落とし穴は、「道院長」とか「指導者」という肩書に居座ってしま

うことです。道院長になったときの原点を忘れてしまう。道院に活気がなくなってくると、組織のせいになり、社会のせいになりして、言い訳するようになってくる。何のために道院長になったのか、なぜ道院を開設したのかという原点を常に確認し、社会の動きを見て、自分のやるべきことをやっていくことが肝要だと思います。

以前、スーパーセーフ(顔面用防具)が新しく出たとき、私は乱捕りが好きだったので、これはいいのが出たと思って、乱捕りばかりやっていたんですね。そうしたら、拳士が4人になってしまつて……。そのとき、ある先輩道院長からの、「砂川先生から『金剛禪の教えをしつかり教育していったら人は残るよ』と言われた」という話を思い出しまして、私ももう一度足元を見直し、金剛禪教育に力を入れました。そうしたら、また人が集まり始めたんですね。

古屋 山口県内でも、いろいろ工夫している道院長がたくさんいます。でも、それを外へ発信するのを苦手とする先生方も多い。ですから、山口県教区として道院の広報活動をバックアップしていくために、他の教区が構築したサイトを参考に

*2 『あ・うん』vol.57「わたしの工夫」参照。

し、トップ画面に県内の道院長の顔写真を掲載し、そこをクリックしていただくとその道院の紹介画面へとリンクしていくサイトを作りました（*3）。これなら、ホームページを一から作るのが苦手な道院でも、道院活動の写真やコメントさえあれば、フレームの中にそれらを貼り付けるだけです。その道院の紹介画面が簡単に完成してしまうんです。まだすべての道院を紹介できてはいませんが、引き続き取り組んでいこうと思っています。

濱崎 おかげさまで、私の道院は門信徒の定着率が高いのですが、それは法話を毎回必ずやっているからだと思います。金剛禅の教えを単に伝えるのではなく、実社会でどう役立てていくかという視点で法話をするようにしています。例えば、これから日本の人口はどんどん減っていくと人口が減っていく。そのとき何が起こり、自分はどうか対処するか、考えてみよう」というテーマを与えるんです。すると、いろんな意見が出てくる。

あるいは、「幸せになりたい？ 不幸になりたい？」って聞いたら、全員が幸せになりたいと。「では、どうし



はまざきつや 三重県教区教区長 濱崎哲也

たら幸せになれると思う？」と尋ねると、子どもたちなりの考えが出てくる。大人も「経済的に豊かになりたい」とか、「人間的な結び付きをよくしていきたい」という考えを持っているんです。そこで私が、「では、それを実現するためにどうすればいい？」と聞くと、「ああ、自分勝手にふるまっていたな……」とか「勉強していないな……」と、自分で気づくようになってくれるんです。

役割を与えて 経験させよ

小林 徳島県に、伊内章二（いうちょうじ）道院という道院長がいるのですが、この方の人を育てる手腕には頭が下がります。伊内先生は、人に對する物腰が非常に柔らかい。拳士を引き付ける魅力があるんです。思考が柔らかく、相手に合わせて接し方を柔軟に変える。拳士一人ひとりをよく

見て、それぞれの存在感を引き出すのがうまいんです。人の世話を最後までする。そういう道院長には自然と人が集まるんです。

このように、私たち指導者が心にくゆりを持って拳士に接したら、拳士も安心して楽しく道院に来れるんじゃないかな。そして、拳士の「可能性」という芽が出てくるように、育てていかないとダメですね。

迎田 かつて拝聴した開祖法話で、「道院は、家族だぞ」と。だから道院では、私は父親役やと。温かさあれば厳しさもあって、拳士を育てていくんです。将来人間として成長していくためには、若いころの下積み

が大切。そのためには、道院内で役割を与えてあげて、何でも経験させることだと思っています。立場が人を育てる。やがて、本人に少しずつ自信がついてきて、自主的に動くようになる。こうやって人を育てていくのだと思います。

代表 自分の生き方を自分で考え、自分の人生を自分でつくっていくことを教えてくれるところが道院なんです。人は人生で、いろいろと悩むとき、気持ちが落ち込むときがあります。でも、道院に行つて仲間と相対して、共に汗を流したり、修練後

に道院長や仲間と話をすると元氣になつてきて、悩みを解決するヒントを得たりする。道院つて、本当にすばらしいところですね。

2019年は、平成最後の年であると同時に、新しい年号が始まる年でもあります。今、さまざまところで平成時代の総括がなされていますが、私たちも、これまでの活動を総括し、それを新しい時代への糧にしていきたいですね。この一年、道院長と拳士の健康を願うとともに、ぜひ、実りある年にしていきたいでしょう！



*3 山口県教区サイト <http://shorinji-yamaguchi.jp/wp/kyouku/>

徳育

徳とは一体どういうものかな。徳はダーマの徳性の中でいちばん大事なもので、尊敬をするとか、自分を戒めるとか、人を戒めるとか、自分を抑える、あるいは喜ぶとかいう感情の世界、与えて喜ぶ、奉仕するなどは、みんな徳性の一つです。

うちも最大問題は徳育なのである。感情の生活の中で徳はいちばん重要な働きを持ち、力を持っている。これを育てるのは、理屈や利害ではないのです。

諸君は今、縁があつてこの道を学んでいるが、重大な岐路に立っている。少林寺拳法の単なる技術屋に成り下がるか、徳育が指導できるようなすばらしい人間として育つか、その境目に。

世界中の武道が集まってロサンゼルスで武道祭をやっているビデオを見ただけでも、飛んだり跳ねたり、演出があつたり、いろんなことをやっていますね。

誤解しないでもらいたい。身心を鍛えるために、少林寺は、技術は必要です。できなければいけない。しかし、見せ物になる必要はない。



開祖語録 ダイジェスト

1979年9月
指導者講習会



※この開祖語録中の「少林寺」は、金剛禅総本山少林寺または少林寺拳法を意味しています。

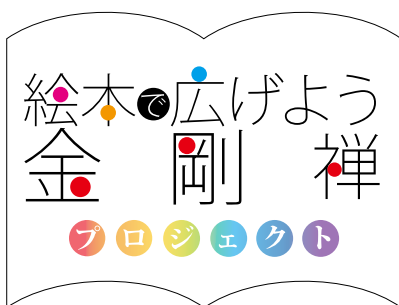
い。あれではまるで芝居だ。ああいう世界になると、結局、体力のある奴、素質のある奴にはかなわない。選手しか残らないのです。

いいですか。今いちばん求められているのは徳性です。自分の存在も大切だが、相手の辛さも考えられる、これが徳なのです。それをやってきたから少林寺は発展してきた。

本筋の技術をちゃんと学んで、そうして理論の裏付けもある指導者になってもらいたい。

技術面の理論だけでなく、思想的な、ものの考え方、人間のいちばん大事な感情世界を支配している徳育の問題、それを含めての指導者がどうしても必要だ。

すべては人の質にある。われわれの運動の成否を決めるのも、指導者層の量よりはむしろ質にかかっている。大きく飛躍するためには、一度足場を固め、身がかがめることが必要のように、今こそ少林寺のすべての道院長は無論、道院の幹部たるものは脚下を照顧して、足元を見直して、指導者としてのみずからの姿勢を厳しく見直すべきときに、今、来ているのである。



浜松渡瀬道院
道院長 浅井昌典

絵本の読み聞かせが育むもの

私の絵本選びは、図書館で拳士の反応を想像しながら吟味し、毎回10冊程度借りてきます。

今回読んだ絵本は『パパのしごとはわるものです』でした。悪役レスラーと息子さんのお話ですが、プロレスの臨場感たっぷりに読みました。そして、「世の中の職業は、すべて必要なもの。誰もが誇りを持って仕事をしているんだよ」という話をしました。道院で絵本の読み聞かせを開始してすぐ、拳士の母親から協力の申し出がありました。その輪が広がり、現在4名の母親と2名の

幹部が協力し、みんな張り切って読み聞かせを行っています。

私を含めた7人7様の読み聞かせは拳士も楽しみで、イスを準備した瞬間、ギュッと集まります。読み聞かせの効果が明確になるのはまだ先かもしれません。しかし先日、少年部主将を務めている拳士が「少年部卒業までに読み聞かせをやりたい」と申し出てくれたことは、大きな成果だと感じています。

今回読んだ絵本

◎パパのしごとはわるものです

作：板橋雅弘
絵：吉田尚令
出版社：岩崎書店



パパの仕事を調べに行くと、なんと、「わるものレスラー」だった。
ずるいことばかりするパパ。最後にはやられてしまうパパ。観客は大喜び。そんな姿、見たくなかった！ でも……。

法座のすすめ

『私達は信をおなじうし、道をともにする人々の結合によって、真の意味における僧伽（えんが）（佛教者の結合）を設立せんと念願するものである。』（『教範（初版・復刻版）第四章宗教編三「主張」

金剛禅は人の心を改造することとで拝み合い、援け合いの理想境建設を目指している。

その手段として主行たる易筋行と鎮魂行とを両輪の修行として取り組んでいる。

そして、この道を行じるための意味を改めて確認する機会として、金剛禅の儀式には「入門式」「新春法会」「開祖忌法要」「達磨祭」などがある。

これらの儀式は布教の一環として、門信徒はもちろん、家族や金剛禅の活動を支援してくれる人達に教えを正しく理解してもらう絶好のチャンスである。

法話を通じて繰り返しこの道が「人づくり」のために創始された目的を明確にすることで、一人でも多くの人々に理解を高めることができる。

また、日々の修練の節目に金剛禅門信徒の修行法である内修の消極的に分類されている「感謝行」「反省行」「持戒行」にも心を配り、調和のとれた修行を行うのに適した「法座（はうざ）」がある。

阿羅漢会（あらかんえ）「感謝行としての場」、布薩会（ふさつえ）「反

省行としての場」、法座（はうざ）「修行内容の点検や行動目標設定などの場」が用意されている。

阿羅漢会としての感謝行は、拳士はお互い住居は別々でも食事を共にすることで食養の意義や共食を通して共に僧伽の仲間意識を高めることができる。

拳士や保護者は、お菓子や飲み物、果物などを持ち寄り、場を盛り上げるような企画をして食卓準備を整え、儀式の中に「鎮魂行」「褒賞」「感謝のことば」「法話」などの式次第を入れ、阿羅漢会の意味を伝える。褒賞には大会への出場者や、昇級・昇段試験での合格者、さらには学校等での表彰者をお祝いし、日常生活の中で些細な事にも感謝の心を持ち、その心境を全員の前で発表する。そこには喜びがあり、笑顔があふれている。

布薩会としての反省行は、初期の仏教教団においても僧伽に所属する出家修行者が一ヶ月のうち二度、懺悔する時期が決まっていた。例えば『満月の晩になると必ず「ウポーサタ」布薩」という儀式が行われる。その時に代表になった人が真中に出て「戒本」というものを唱える。戒本というのは、そういうことをしてはならぬ、こういうことをしてはならぬという規則である。

その規則を一カ条ずつ唱える。暗記しているのを唱える「こういう罪を犯した者はいないか」と一カ条ずつなのである。そうすると罪のないものは沈黙していた。黙っていた。經典に「罪のないものは沈黙していよ。罪を犯したものはそれを懺悔せよ」と書いてある。たとえば「嘘は言わなかったであらうな」ということをいうと、嘘をついた者は立ち上がって「わたしは実はこういういうときに嘘を申しました」といつて懺悔する。自発的にいうのである。』（いのちの風光）紀野一義著 筑摩書房

道院においても「布薩会」「反省行」を不定期に実施することによって修行に向き合う人が真実の魂に触れ「良く整えし己れこそ」へと変わっていく。多くの法話が一方的に布教されるのに対して、参加者全員が車座になっていろいろなテーマ（例えば修行内容の点検や行動目標の設定）を相互に話し合いながら教化し合う方法に「法座」がある。これらの法座が信を同じくする人たちにより、日常生活の具体的な悩みや悲しみにも向き合い、ともに語り合って苦悩を乗り越え、人生を精神的に強く、安らかな心で生きていける教化の場となれるように取り組んでみませんか。

わたし^の 工夫

第10回

道院運営へのヒント・・・
もって道院の活性化、拳士の
育成につなげていこうという
コラムです。

今回の工夫を
教えてくれたのは・・・



はちのへひがし
青森県・八戸東道院
はら ひろし 道院長

工夫¹ 法話では日常生活と教えの「接点」を大切に



拳技も大切なのですが、鎮魂行と法話も大切にしています。鎮魂行では、どんな子でも主座や打棒の役が務められるよう、輪番で経験させています。人前で一所懸命何かをしようとする経験を積むことは、一歩踏み出す勇気を培ってくれると思います。また、法話では、単に金剛禅の教えを通り一辺倒で話すのではなく、拳士に問いかけながら、対話形式で進めるようにしています。日常身近な事例と教えとの「接点」を切り口に、法則や自然の摂理につなげ、身心共に法則に適った生き方ができるよう、教え導くようにしています。もちろん、そのためには私自身が物事を正しく見ることができるよう、日頃から勉強していないといけません。金剛禅には教えがあります。それは、人間が人間らしく生きていくための、自然の法則に適った教えです。それを学べる道院でありたいと思っています。

工夫² 「金」「銀」「赤」の色分け

技術科目については、拳士自身がある程度修得できたかなと感じたら、私の確認や評価を受けさせるようにしています。その際、8点なら赤色の判子、9点なら銀色の判子、10点なら金色の判子を押してあげます。点数によって色分けすると、子どもたちは「金」を目指して頑張るようになります。そのためには、一つ一つの法形を正確にできなければなりません。ですから、おのずと集中力も高まるようです。なお、私の道院では、一般拳士の仲が非常にいいですね。少年部時代から始めて、今では副道院長として私を支えてくれている丹波忠晴さんや、私が道院長になる前から、30年以上共に歩んできた監事の館光彦さんをはじめ、多くの仲間を支えられています。青森武専には、八戸から会場まで皆で車に乗って、片道2時間かけて行くのですが、武専の帰りには、毎回「反省会」と称して、お酒を飲まない運転

手以外は缶ビールとおつまみを片手に、武専の話はもちろん、プライベートでのいろんな出来事や相談事も含め、人情味ある会話を交えながら互いの親睦を深めています。こういうのも、掛けがえのないひとときなのだと思います。



本山

開催報告

● 教区研修会

〔10月14日〕佐賀県教区
〔11月4日〕富山県教区

● 小教区研修会

〔7月8日〕東京第十小教区
〔10月7日〕埼玉第一小教区
〔10月14日〕東京第七小教区
〔10月20日〕千葉北部小教区
〔10月21日〕和歌山海南・中紀小教区

京都府教区

京都府教区の達磨祭

2018(平成30)年10月7日(日)、京都明珠道院において、教区長、道院長、大学生を含め20名以上が集い、京都府教区達磨祭を執り行いました。法話



は、京都明珠道院の三井道院長から「自他共楽は身近なところから」というお話を頂戴しました。また奉納演武は、大島拳士、中村

拳士による慎ましく厳かな演武が奉納されました。その後、京都別院があった法輪寺(達磨寺)へ移動し、石碑参詣をしました。

京都別院は、開祖が一時、月の半分を滞在し、直接ご指導なさっていた場所であり、現在では京都別院はないものの、「少林寺拳法根本道場発祥地」という石碑があります。川上教区長からは、この場に来まることのできる貴重さと喜びを語られ、京都府教区として一丸となって京都を盛り上げることを話した日となりました。

(京都修学院道院・永江健将) 周南道院 設立20周年記念 演武会・祝賀会

10月21日(日)、周南道院設立20周年を記念し、県内の各道院長・支部長にご出席いただき、演武会および祝賀会を盛大に開催した。

演武会は、鎮魂行のあと、全員で基本演練を行い、保育園拳士・小学生低学年拳士による団体演武から始まり、小学生高学年拳士の団体演武、単独演武、組演武と進み、続いて一般拳士の単独演武、組演武が行われ、最後に森拳士と私の組演武で第一部は終わった。下は5歳から



上は61歳までの演武会であったので、「少林寺拳法の修練過程がよく分かる演武会であった」との声を頂いた。アトラクションとして少年部拳士による寸劇「正義なき力は暴力なり、力なき正義は無効なり」が演じられ、会場は笑いと拍手に包まれた。

第二部の祝賀会では、山口県少林寺拳法連盟会長の高村正彦様をはじめ、長田正紀山口西京道院道院長、榊野象堂光峨嵯山道院・徳山道院道院長からもご祝辞を頂いた後、山口県少林寺拳法連盟副会長の三浦美光様の乾杯の音頭で祝宴に入った。最後に、日頃の感謝の意を込め私から妻に花束を贈呈。そして、山口県少林寺拳法連盟副会長の陰山和子様にも万歳三唱の音頭を取っていただき、全員で万歳三唱して会は閉じられた。

(渡邊晴夫)

本山

少法師補任講習

11月18日(日)、金剛禅総本山少林寺金剛殿において、少法師補任講習が行われた。

講習は、講義のほか、受講者同士の布教報告と布教討議、また、面接審査が行われた。

少法師は高位に当たる僧階であるため、受講者はベテランの道院長ばかりであり、布教について熱心に討議する姿が印象的であった。

最後には、大澤隆金剛禅総本山少林寺代表から受講者12名に辞令が交付され、無事に講習を終えた。

(宗務局)



本山

11月度指導者講習会

11月24日(土)、25日(日)の二日間、11月度指導者講習会が本山にて開催され、69名の参加があり、「少林寺拳法がなぜ金剛禅の主流たり得るか」というテーマで進められた。講義、易筋行(技術修練)のほか、トークライブという本山職員3名が、指導現場や自身の修行で感じたことを踏まえ、今回のテーマについて気楽に語り合うプログラムが非常に好評であった。

(宗務局)



2018年10・11月度 認証

交代

東京桜台道院
砥部大南道院

不破 健富
福岡 健一

札幌栄道院

白戸 淳一

法階昇格者

正範士

■2018年11月18日付

三角 進弥(尼崎潮江道院)
船ヶ山 日出光(宮崎西道院)

准範士

■2018年11月18日付

田山 文夫(金沢文庫道院)
田中 徳幸(NTT西日本)

僧階昇任者

少法師

■2018年11月18日付

石井 悦雄(三沢中部道院)
天内 司(青森藤崎道院)
高野 誠一(八戸南郷道院)
鎌田 礼二(宮城塩竈道院)

中野 祐則(茨城牛久道院)

古賀 秀晴(埼玉川鶴道院)

福沢 昭文(山梨石和道院)

田村 昌夫(佐久平南道院)

塚本 一(岐阜三田洞道院)

遠藤 浩克(名古屋高針道院)

渡辺 浩志(滋賀瀬田道院)

瀬戸口 信夫(伊万里道院)

中導師

■2018年9月1日付

日野 義弥(大和高田道院)

藤岡 孝壽(門司港道院)

お布施

布施

▷伊万里道院 瀬戸口 信夫・瀬戸口 和子	20,000円
▷宮崎橋道院 大西 桂一郎	10,800円
▷豊田末野原道院 服部 俊美	10,000円
▷綾歌道院 村山 隆	10,000円
▷南中野道院 永井 比佐志	10,000円
▷三重志摩道院 内田 穂克	10,000円

公認講習会

▷東海地方教区	70,000円
▷埼玉県教区	30,000円
▷神奈川県教区	30,000円
▷四国地方教区	30,000円

訃報

さかもと としみち

坂本 利通 尾張旭道院・尾張旭南道院 道院長、517期生、大導師大拳士五段、2018年10月12日逝去、満65歳

僧階補任講習 (大導師・中導師)

■本山

大 中 導・導 師 師	日 時	2019年3月10日(日) 6:50~15:30(予定)
	会 場	金剛禅総本山少林寺
	申込締切	2019年2月11日(月・祝)

■東京別院

中 導 師	日 時	2019年3月30日(土) 7:00~16:00(予定)
	会 場	金剛禅総本山少林寺 東京別院
	受講対象	北海道教区、東北地方教区、 関東地方教区の門信徒
	定 員	30名
	申込締切	2019年2月23日(土)

3月に僧階補任講習(大導師・中導師)を開催いたします。
今年度より東京別院でも開催されることになりました。
受講対象者には、別途メールにてご案内いたします。



大 導 師	日 時	2019年3月31日(日) 7:00~16:00(予定)
	会 場	金剛禅総本山少林寺 東京別院
	受講対象	北海道教区、東北地方教区、 関東地方教区の門信徒
	定 員	30名
	申込締切	2019年2月23日(土)

級拳士講習会 (東京別院)

級拳士講習会を東京別院にて開催いたします。
詳細は、基幹事務システム「お知らせ画面」でご案内
いたします。

日 時：2019年2月23日(土)
9:30~16:00(予定)
会 場：金剛禅総本山少林寺 東京別院
受講対象：今年度16歳以上、且つ、6級~1級
受 講 費：5,400円(税込)

編集後記 ▶心新たに一年のスタートを切られたこと
 と思います。例年、元旦には神社やお寺にたく
 さんの人々が初詣に訪れます。日本人の宗教離れ
 が話題にされたりもしますが、結婚式がそうであ
 るように、人生や生活において威儀を正す節目に
 は、やはり宗教の持つ厳かさや深遠さが必要とさ
 れています。▶金剛禅の門信徒にとって、礼拝施
 設のある道院での初稽古は、いわば初詣です。ど
 この道院でも、道院長から新年にあたってのお話
 を聞き、変わらない精進を心に誓うことと思いま
 す。また、保護者や関係する皆さんを招いての新
 春法会も、道院にとっては年の始めの大切な催し
 事です。厳粛さの中にも温かみのある、金剛禅ら
 しい初稽古や新春法会にいたしましょう。(さ)

表紙 ▶志村 力 一般財団法人少林寺拳法
 連盟 振興普及部事業課。准範士七段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/>
 代表法話をはじめ、「宗門の行としての少林寺
 拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲
 載しきれなかった記事・写真も掲載されてい
 ます。

金剛禅

検索

あ・うん vol. 62
 金剛禅総本山少林寺広報誌 2019 睦月・如月

2019年1月1日発行(奇数月1日発行)

発行人：大澤 隆

発行所：金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：坂下 充

印刷・製本：株式会社ムレコミュニケーションズ

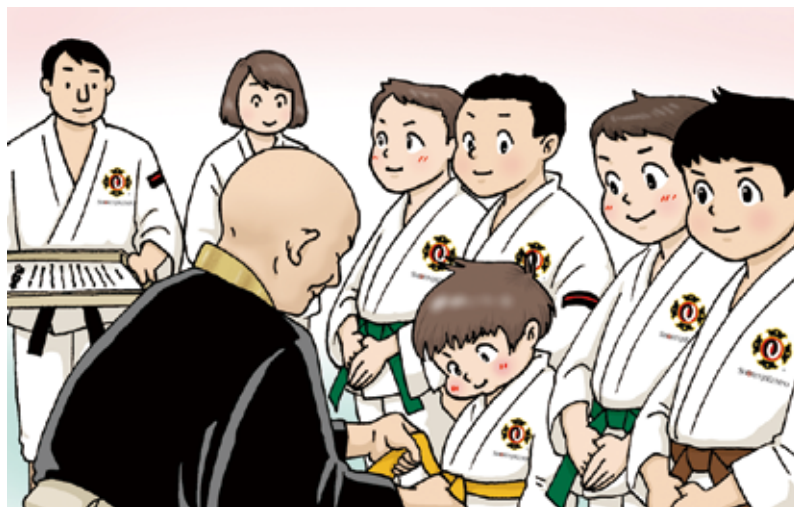
広報誌「あ・うん」追加発送について ◇◇◇◇◇◇◇◇

現在、広報誌「あ・うん」は、道院の在籍門信徒数
 に応じて10~20部ずつ、一般財団支部は1部ず
 づ、毎号ご提供させていただいております。さら
 に追加をご希望の方は、本山布教課にお申し出
 ください。

TEL.0877-33-1010

e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp

いち ご いち え
 一期一笑



イラスト／大原由軌子

かりやみなみ こめだまさひろ
 刈谷 南 道院 米田正寛

道院で新春法会・修練始め

冷たい道衣を羽織り、帯を締める。
 不思議と身心ともに引き締まり、寒さ
 を感じない。寒さより、ことし一年の
 修練が始まる「喜び」が勝る。心新たに
 新年のスタートである。

早朝より社会人や学生拳士が中心と
 なって会場準備を行いました。法要は、
 保護者や関係者が見守る中、鎮魂行を
 行い、演武奉納、年間出席優秀者への
 記念品贈呈、そして合格証書の授与や
 新しい色の帯の贈呈を行いました。一
 年の節目に関係者全員が集まり、昨年
 の功績を認め合い、新たな年の決意を
 行います。もちろん何気ない日々の暮
 らしに感謝し、修練を通じて自己を磨
 き、他人を大切にすることも振り返り
 ます。そんな空間を、みんなで一緒に
 つくれたことが何よりも喜びです。

その後は、修練始め。朝から元気な
 子どもたち、学生や社会人も「ヤァー」
 「ヤァー」と久しぶりの基本修練に、一段
 と大きな気合が道院の周囲に響き渡りま
 す。仲間たちとの修練は心地よいもので、
 楽しい時間を過ごすことができました。

また、餅つき大会も行いました。もち
 米の蒸し加減はベテランが確認し、ペッ
 タンペタンと、子どもから大人まで全
 員でつきました。もちろんつきたては最
 高においしく、8個も食べた子どももい
 て大盛況でした。また、道院の近隣の方
 にも餅をふるまい、喜んでもらうことが
 できました。

新しい年を健康で迎えられたことに感
 謝し、一日一日を大切にし、この一年を
 実りあるものにしていきたいと思ひます。

(2018年1月6日開催)

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、
 所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。
 原稿の選択はご一任ください。〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 金剛禅総本山少
 林寺 広報誌担当宛 TEL.0877-33-1010 FAX.0877-56-6022 e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp



宗門の**行**としての少林寺拳法

相手と向き合う

相対演練とは、相手と向き合う「行」である。

自分本位に動いていては、相手の動きに応じられなくなるばかりか、自分自身が崩れてしまう。

相手も同じようにダーマの分霊を持った^{ひと}霊止であることを認識し、相手の存在を認め、相対演練を重ねる中で互いの呼吸、テンポ、リズムを整え、他者との関わり方を学んでいくのである。

さて、日常生活において、周りの人と真剣に向き合う時間はどれくらいあるだろうか。



一本背投から空中転回

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイトで
動画をご覧いただけます。

撮影／志村 力 文／富田雅志 演武者／守者：富田雅志 大拳士六段・攻者：永安正樹 准範士七段



SHORINJI KEMPO
少林寺拳法